

## ■ 図面管理システムの導入で作業時間を3分の1に短縮

## ■ 問い合わせ対応に伴う現場への確認が不要に

デジタル化による書類管理の効率化と全社的な業務改善を達成

企業情報	
業種	塗装業
事業内容	焼付塗装、ウレタン塗装
創業	1961年5月
代表者	代表取締役 麻生 広美
所在地	神奈川県川崎市高津区下野毛3-5-10
従業員数	5名
企業紹介	

1961年創業以来、精密機器・電子部品・医療機器等の板金塗装を専門に手がける。少量多品種生産を得意とし、試作から量産まで柔軟に対応。特に品質管理においては、女性社員のこまやかな目線による検査体制が顧客から高く評価されている。「お客様のご要望に120%お応えする」を信条とし、高品質な塗装技術を提供し続けている。



<https://www.asoutokousho.co.jp>



取締役 佐藤 愛香 代表取締役 麻生 広美

案件一覧	ブラックメタリック
製造数量	208
納期	2025/10/28
日付	2025/10/03
工程①	洗い
開始終了時刻	洗い
個数	洗い
日付	マスク
	ペーパー
	研ぎ
工程②	パテ
開始終了時刻	パテ

図面管理システムによりリアルタイムに生産状況を把握

## 従来の課題

- ・ 長時間の手書き作業が業務を圧迫し、本来の製造業務に支障
- ・ 頻繁な現場確認により製造現場全体の効率が低下
- ・ 10年分にわたる紙書類の保管がスペースを圧迫

精密機器の板金塗装を手がける当社では、顧客からの注文書に基づき納期、品名、数量を記載した工程表や作業表を手書きで管理していました。担当社員は入社後30分から1時間を転記作業に費やしており、本来の製造業務に充てる時間が減少していました。特に深刻だったのが、塗装作業中の確認待ち時間です。工程表が製品とともに塗装ブース内を移動するため、塗装作業中は進捗を確認できず、顧客からの問い合わせに即答できない状況が発生。メタリック塗装など重ね塗りの場合は、最大で2時間ものあいだ塗装ブース内の状況確認ができず、折り返し対応を余儀なくされていました。また、製品がどの作業者のところにあるか、製造場所を歩いて確認する必要があり、頻繁な現場巡回が組織全体の負担となっていました。

## 取組概要

### デジタル化による業務効率化を実現

- ・ 図面管理システムの導入で手書き作業をデジタル化
- ・ タブレット管理により現場確認の省力化を実現

#### (1) タブレットによる一元管理で業務効率化

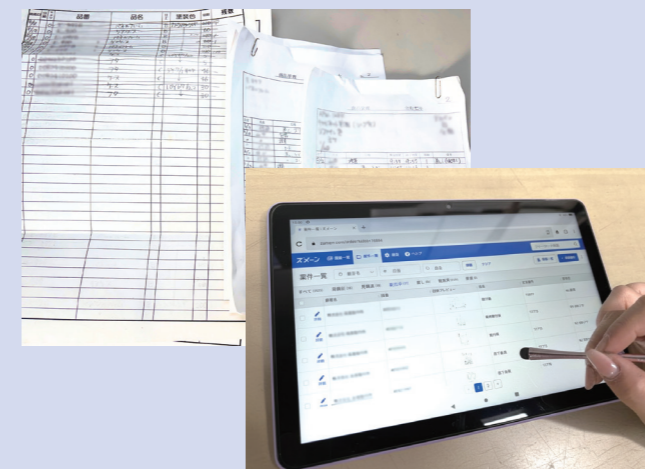
図面管理システム「ズメン」を導入し、従来の手書きによる管理をデジタル化しました。一人ひとりがタブレットで管理することにより、工程の進捗状況、納期などを現場に出向かずともリアルタイムで生産状況を把握できるようになりました。

#### ズメンの主な機能

- 図面や関連データを端末で一括管理
- 進捗状況をリアルタイムで確認可能
- 過去の受注データ蓄積により類似案件の入力を簡略化

#### (2) カスタマイズと段階的導入

従来の紙ベースの作業フローに合わせてシステムをカスタマイズ。3ヶ月間の導入準備期間を設け、週1回、全員で問題点を話し合い、ITベンダーと一緒に改善を重ねました。シンプルな操作性により、マニュアルが不要で導入がスムーズに進みました。



図面管理システムの導入により手書きによる管理をデジタル化

## 実施効果

### 図面管理システムの導入による効果

手書き作業時間の削減  
導入前比 約7割減  
現場確認にかかる時間  
導入前比 ほぼゼロに

#### (1) 手書き作業時間の劇的短縮

生産管理表や納期表などの手書き作業が削減され、さらに進捗確認のための作業中断もなくなりました。また、類似受注案件のデータを活用することで、2回目以降の入力作業を大幅に省力化できました。

- 転記作業に費やしていた時間を本来の製造業務に充当
- 過去の受注データ活用で繰り返し案件の入力時間短縮

#### (2) 現場確認・問い合わせ対応の効率化

タブレットでリアルタイムに生産状況を把握できるようになったことで、現場まで足を運ぶ時間や、塗装作業終了までの待機時間が不要になりました。

- 顧客からの問い合わせへの即答が可能
- 折り返し対応が不要となり、顧客満足度も向上

#### (3) ペーパーレス化と情報活用

紙の消費量が大幅に減り、過去データを活用することによって業務の効率化が進みました。

#### (4) 品質向上と精神的負担の軽減

「忙しいシーズンは笑顔がなかった」という状況から、余裕を持って業務に取り組める環境に改善。特にこまやかな確認作業の精度が向上し、数量や加工不良などを早い段階で確認できるなど、再生産の防止に大きく貢献しています。

- 各社員が本来の製造業務に集中できる環境を実現
- こまやかなサービスで好評だった品質がさらに向上

## 成功の決め手・秘訣

### 1. 全員参加型の導入プロセス

導入当初の抵抗感を、3ヶ月間のシステム定着期間で克服。週1回、社員全員で問題点を話し合い、「皆と一緒に育てる」という意識で取り組みました。特殊な製品や例外的なケースにも、運用ルールを工夫することで柔軟に対応し、現場の実態に即したシステムに仕上げました。

### 2. シンプルな操作性とカスタマイズ

「教えることが少ないシステムは浸透しやすい」という考えのもと、タップして数字を入れる程度の簡単な操作を実現。当社の工程順に合わせたカスタマイズと、ITベンダーによる定期的な機能改善により、システムを進化させています。

### 3. 経営者の決断力と柔軟性

「まずは使って、さわってみて、慣れてみて」という社長の声で、デジタル化への一歩を踏み出す原動力となりました。「一緒にシステムを育てた3ヶ月だった」とふり返るように、この柔軟な経営判断と若手社員の後押しにより、全社一丸となった導入体制を構築できました。

## 社員の声

- 数量や素材の違いにすぐ気づいて連絡できるようになりました。顧客への即答が可能になり、折り返し対応が不要になったことで『安心して任せられる』と高い評価をいただいています。
- 情報が集約・共有されることで全体像が俯瞰できるようになりました。過去のデータも活用できるので、同じような注文を受けたとき『過去の記録を追える』のがとてもいいです。

## 今後の展開

### さらなる機能活用と技術継承

作業工程の写真・動画保存機能を本格活用し、技術継承のためのデジタルマニュアルを体系的に整備。図面がない製品については、写真を図面の代わりに活用できる機能も本格的に運用する予定です。

### 会計システムとの完全連携

現在、別システムとなっている機能を統合し、見積から請求までの一元管理を目指し、将来的には「入口から出口まで一気通貫で管理できる現場」を構築します。

## 導入のポイント

### 1. 明確な課題設定と段階的導入

手書き作業の非効率性、待機時間、現場確認の手間という明確な課題を設定。3ヶ月間の導入準備期間を設け、段階的に本格運用へ移行することで現場への定着を実現しました。

### 2. 現場の実態に即したカスタマイズ

従来の工程順に合わせたカスタマイズ、特殊案件への柔軟な運用ルールを策定することにより、「現場で本当に使える」システムに。ITベンダーによる定期的な訪問とサポート(月1~2回の来社、電話やメールでの対応)で、現場の声を反映した継続的な改善を実現しました。